

読書の小径

こみち

No.82



「遠野物語」を読む

市図書館 ☎ 1253

3月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※ が休館日です

開館時間

火～金曜日……………10:00～19:00
土・日曜日、祝・休…10:00～17:00

※図書館のご利用は無料です

天狗や河童、座敷ワラシ、神隠しなど、遠野に伝わる不思議な話を119話にまとめた柳田國男『遠野物語』。神や精霊、妖怪の生きる異界が人々の身近にあったことを伝える伝承は、古典となつて生き続け、今年発刊百周年を迎えます。

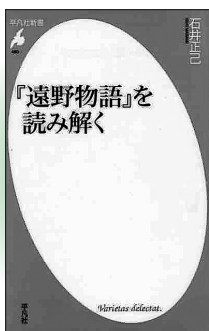
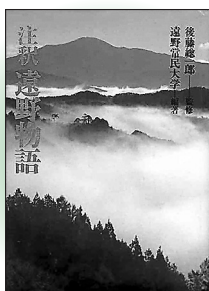
また。図書館では『新編柳田國男集』や『土とふるさとの文学全集』のそれぞれ第一巻で読むことができます。

遠野の人が10年にわたつて柳田國男の学問と思想を学んできた「遠野常民大学」の成果が『注釈遠野物語』です。百人を超える聞き取り調査により、登場人物の系譜や伝承、遠野の歴史・地名・信仰などに肉薄しました。また、毛筆草稿本と初校本を掲載し、推敲過程をたどることができま

す。土地の人でなければ書けない注釈と解説によって本質に迫ります。

石井正己『「遠野物語」を

読み解く』。第一人者が、分析と現地での地道な調査により、草稿から成立過程までを明らかにします。柳田國男が遠野の背後にアイヌの歴史を想定していたことや、初版と増補版との関係、柳田が語り手の佐々木喜善に抱いた愛憎半ばする感情など、話題が豊富です。例えば、遠野が江戸時代は一万石の城下町であり、相應に江戸文化が流入する、割合に繁華な町だったという事実から、「遠野物語」の中の身の大半は、幕末から明治にかけての江戸文化の影響のもとに語られている、という指摘には驚かされます。



3月

催し物だより

陶史の森 ネイチャーセンター ☎ 5144

●自然教室

・日時 3月7日(日)

午前9時～11時30分

(雨天中止)

・内容 春を待つ樹木や草の芽を観察 ※事前に申し込みが必要

●春の天体教室

・日時 3月20日(土)

午後7時～9時

(雨天中止)

・内容 春の天体観察 ※事前に申し込みが必要

●バードウォッチング

・日時 3月28日(日)

午前9時～11時30分

(雨天中止)

・内容 早春の野鳥観察 ※参加は自由

★陶史の森の催しは、お一人でも参加できます。ただし、低学年児童は、親子でご参加ください。

ベニマシコ(アトリ科)

長めの尾、翼に白い帯。北海道で繁殖し、秋冬は本州以南に移動。雄の色は、夏の方が赤みが強い。「ピッ」「ピッポー」「ピッポー」と鳴く。



●お願い 陶史の森は、動植物を保護しています。山野草やミズゴケなどを絶対に採らないでください。また、陶史の森およびせせらぎ公園へのペット連れでの立ち入りはご遠慮ください。